2018年8月25日　（毎月３回5・15・25日発行）　兵庫保険医新聞　（昭和43年6月12日第三種郵便物認可　年間購読料　12,000円）　号外

兵庫県保険医協会
# 明石支部ニュース

2018. 8. 25
No. 300
投稿歓迎！

兵庫県保険医協会明石支部
支部長　吉岡　巌
神戸市中央区海岸通一丁目二番三一号
神戸フコク生命海岸通ビル五階
TEL〇七八―三九三―一八〇一㈹
FAX〇七八―三九三―一八〇二

## 明石支部接遇研修会に49人参加

### 接遇の基本は

**N　ニコニコ**

**H　ハキハキ**

**K　キビキビ**

支部は7月28日、あかし保健所1階ホールで接遇研修会「日経メディカルでおなじみANA元CAによる医療機関向け接遇」を開催した。ANA元CAで、ホスピタリティコンサルタントの榊原陽子氏を講師に、医師・看護師・医療事務ら49人が参加した。

榊原氏は、医療現場はサービスを提供する側も受ける側も対等であり、相手と自分の違いを尊重し、形式的なマナーだけでなく相手の気持ちに寄り添うような行動や声かけでホスピタリティを向上させようと語った。また、参加者同士でのコミュニケーションの練習で感じた思いを伝え合い、周囲へのアンテナを常にもつ大切さを、実践を通して互いに学習した。

**～参加者の感想文～**

〇自分だけではホスピタリティは成り立たず、患者様など相手を思いやることが大切なのだと学びました。「コミュニケーションの結果は相手が決める」という言葉がなるほどと思いました。（医療事務）

〇相手に伝えて理解してもらうには、という点で、自分のことに重きがあったことも、伝わらない原因であったことに気付くことができました。（医療事務）

〇高齢の患者様と接する際に、ついつい敬語が抜けがちになってしまいます。ホスピタリティとマナーの両方活かした対応・会話を心がけたいと思いました。（看護師）

〇笑顔がどれだけの人に好印象を与えるのか、ということを再度認識することができました。（医療事務）

〇NHKを実践することで、印象を変えることができると分かりました。（受付）

〇座学だけでなく、実技もふまえて指導していただいて、分かりやすく楽しく学べました。（看護師）

〇相手のいいところを見つけること、そのためのアンテナを立てることが大事だと思いました。（ソーシャルワーカー）

吉岡巌支部長が研修会前に参加者へ挨拶

２人１組になって、お互いの第一印象を伝え合う参加者

## 残暑お見舞申し上げます

兵庫県保険医協会　明石支部
支部長　吉岡　巌
支部幹事一同
2018年8月

★支部ニュースの掲載写真をカラーでご覧いただけます！　協会ホームページ（ http://www.hhk.jp/ ）支部のページ　明石支部をぜひご覧下さい。

## 明石市の先進的子育て施策について懇談

# 誰ひとり見捨てない すべてのこどもたちに

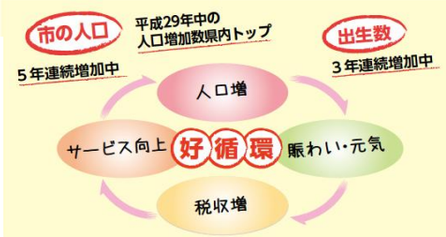
6月26日、パピオス明石のこども健康センターで、京都社保協等が企画した明石市との子育て支援政策についての懇談に、兵庫県社保協を通じて、協会明石支部、明石社保協も参加した。

明石市からは、子育て支援室の永富秀幸室長、児童福祉課の田中典子課長、こども健康課の春田幸子課長が参加した。

懇談では、明石市の担当者から、「こどもを核としたまちづくり」として、子育て世帯の負担軽減や教育環境整備など総合的なこども支援施策により、人口は5年連続、出生数も3年連続で増加しており、税収増などまち全体がにぎわう好循環も生まれていると強調。また、今年4月の中核市への移行に伴い、来年には、中核市として関西で初めて市の児童相談所が設置することを紹介。市として責任を持ってこども家庭支援を一貫して行なうとした。

さらに、所得制限なしの第2子以降の保育料無料制度や中学校卒業までのこども医療費窓口負担無料制度、親子共に利用料無料の遊び場の整備、明石駅前図書館・教育スペースの新設、市営こども食堂と児童相談所の設置、市内全28小学校区に里親配置を目指す「あかし里親100%プロジェクト」などを明石市独自の先進的な取り組みとして紹介した。

また、今年5月には、市が全面出資し一般社団法人「あかしこども財団」を設立。今年度は、こどもの居場所作りとして市から委託されたこども食堂について、全28小学校区での設置を目標に開設への助成・運営サポートやネットワークづくりなどの事業計画をたてている（7月現在、市内全28小学校区にこども食堂を設置。他に市民団体等の設立も含め合計で37カ所設置）。




明石市HPより転載

貧困家庭のこどもだけでなく、「誰ひとり見捨てない、すべてのこどもたちに」とのコンセプトで、すべての子どもが気軽に立ち寄れる場所として、困難な状況におかれたこどもの早期把握・支援を目的に、市と地域で連携した気づきの拠点としてこども食堂を位置づけているとのこと。

参加者から、こども医療費中学卒業まで完全無料化での市議会の議論について質問が出され、明石市は、安易な受診をしないような啓蒙と、夜間・休日応急診療所の受診の増加が特に見られないことから問題ないと回答し、お金の心配なく受診できるという安心、適切な治療を早めに受けられる機会が増えたことで重症化の防止に繋がっていると喜ばれていると述べた。協会明石支部からは、高校卒業までの無料化について再度検討を要請した。

すべての報告を受け終えて、京都の参加者からは充実した手厚い支援施策の内容に、驚きの声があがり、「京都の子ども施策にも生かしたい」、「国がすべき内容だが、全国の運動にも広げたい」といった感想が聞かれた。

# 平和行進開始60年

## 核兵器のない世界をめざし歩きました

平和ののぼりを掲げ、明石市役所から
行進した樫林先生（中央）とスタッフ一同

「核兵器にない世界を」と、核兵器廃絶を訴え歩く「国民平和大行進」が今年も行われた。7月11日、樫林歯科の樫林義雄院長とスタッフ、一城小児科の辻一城院長が明石市内で大行進に参加した。参加者の感想文を紹介する。

4月から樫林歯科に入り、初めて平和行進という活動を知り、参加させて頂きました。

行進は炎天下の中、体力的にも非常に辛いものでしたが、皆さんの励ましや、地元の方々からの差し入れなどもあり、無事に完歩することができました。

私は、普段はなかなか原水爆について、深く考えることが出来ていませんでした。ですが、この行進で戦争と平和について改めて深く考えることができる、いい機会になりました。これから私が出来ることは、被爆者の気持ちを受け継ぎ、戦争の卑劣さを忘れず、一人でも多くの人達に伝えていくことだと思います。

この様な貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

（樫林歯科スタッフ　S．Y）